

財務診断分析資料

< 目次 >

- 1 決算の概要
- 2 収益構造のゾーン分析
- 3 財務指標のゾーン分析
- 4 単位生産規模当たり財務指標のゾーン分析
- 5 経営の強みと弱み(コメント)
- 6 経営改善シミュレーション

お問い合わせ先

■ 日本政策金融公庫 東京支店 農業食品課

TEL. 03-3270-9791

FAX. 03-3270-9248

e-mail. antokyo@jfc.go.jp

(1) 本資料は、貴殿(貴社)から頂きました決算資料をもとに、当公庫の財務診断分析システムを使って分析した結果をもとに作成しております。

(2) 使用した比較業種と分析モデルは次のとおりです。

比較業種: 稲作_個人 (【1】決算の概要の主力部門実績, 単位規模当たり収支の業種平均値)

分析モデル: 個人土地 (上記以外)

(3) 従いまして、本資料は当公庫から貴殿(貴社)に対する融資を約諾したり、融資条件を確約する性格のものではありませんので、ご注意ください。

【1】決算の概要

2018年12月期

(1) 損益計算書

	(単位:千円)	対前期比
★売上高	39,718	-24.0%
(-)売上原価	36,347	
★粗利益	3,371	-84.2%
(-)販売費・一般管理費	0	
★営業利益	3,371	-84.2%
(+)営業外収益	0	
(-)営業外費用	0	
★経常損益	3,371	-84.2%
(+)各種引当金・準備金繰戻	0	
(-)各種引当金・準備金繰入	0	
(-)所得税	0	
★当期利益(所得税支払後利益)	3,371	-84.2%

(2) 貴殿の主力部門実績

	2018/12	2017/12	業種平均値
◎ 生産規模 (作付面積)	2,726.0	2,726.0	1,514.7 a
◎ 単位当たり生産量 (10a当たり収量)	506.2	506.2	539.4 kg/10a
◎ 単位当たり価格 (kg当たり価格)	191.8	191.8	223.5 円/kg
◎ 単位当たり販売額 (10a当たり)	97.1	97.1	120.5 千円/10a

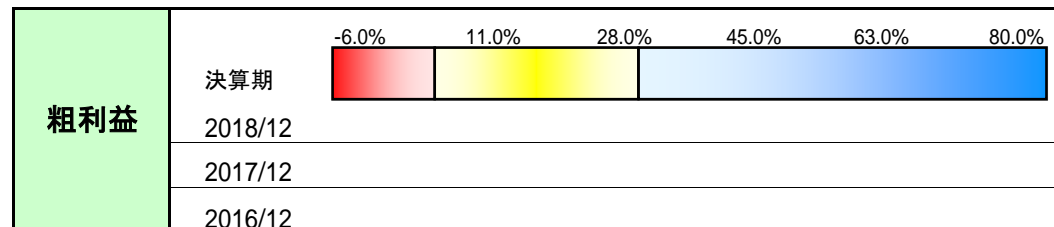
(3) 貴殿の単位規模当たり収支

	2018/12	2017/12	業種平均値
◎ 売上高	145	191	209 千円/10a
◎ 総費用(特別損益を除く)	133	113	129 千円/10a
◎ 経常利益	12	78	80 千円/10a
◎ 減価償却費	45	23	13 千円/10a
◎ 雇用労賃	7	8	6 千円/10a
◎ 支払利息	0	0	2 千円/10a
◎ 賃借料・リース料	3	15	19 千円/10a

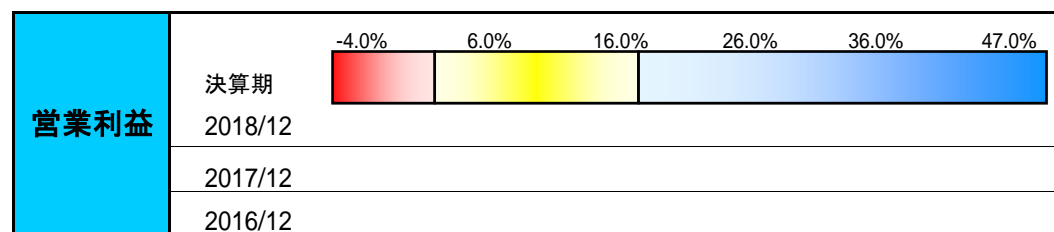
【2】収益構造のゾーン分析

■ 改善を要するゾーン
 ■ 注意を要するゾーン
 ■ 健全なゾーン
 ▲ 貴殿の実績ポジション

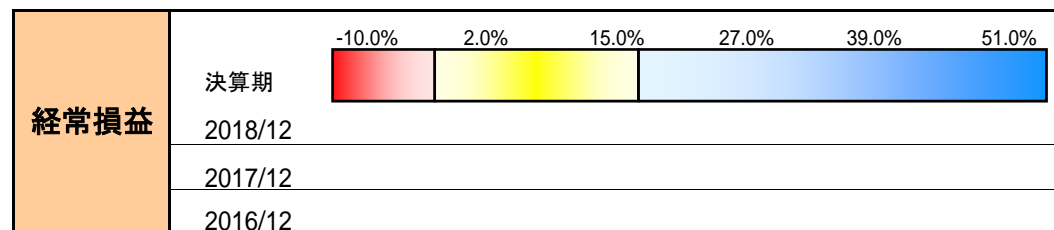
売上高を100とした場合の各利益項目の利益率



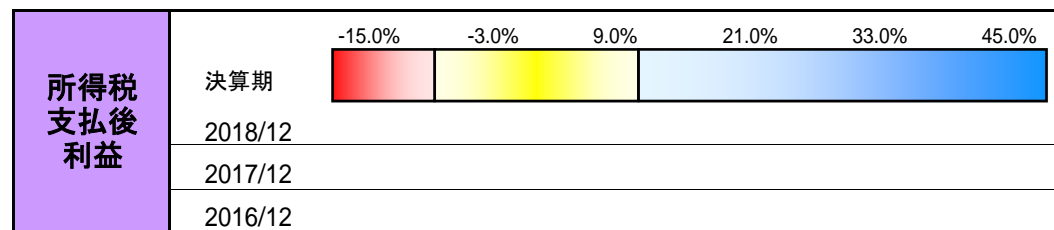
粗利益率	(単位: 千円)			(単位: 千円)	
	売上高	売上原価	粗利益	月商	
	8.4%	39,718	36,347	3,371	3,309
	40.8%	52,284	30,909	21,375	4,357
15.7%	45,907	38,688	7,219	3,825	



営業利益率	(単位: 千円)					
	粗利益	人件費	償却費	その他経費	営業利益	
	8.4%	3,371	0	0	0	3,371
	40.8%	21,375	0	0	0	21,375
15.7%	7,219	0	0	0	7,219	



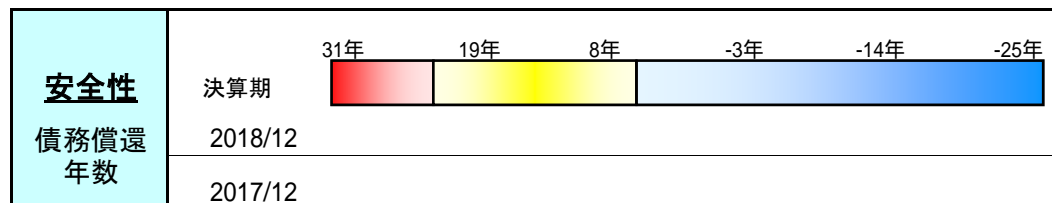
経常損益率	(単位: 千円)					
	営業利益	営業外収益	営業外費用	支払利息	経常損益	
	8.4%	3,371	0	0	0	3,371
	40.8%	21,375	0	0	0	21,375
15.7%	7,219	0	0	0	7,219	



当期利益率	(単位: 千円)					
	経常損益	各種引当金・準備金繰戻	各種引当金・準備金繰入	所得税	所得税支払後利益	
	8.4%	3,371	0	0	0	3,371
	40.8%	21,375	0	0	0	21,375
15.7%	7,219	0	0	0	7,219	

【3】財務指標のゾーン分析

■ 改善を要するゾーン
 ■ 注意を要するゾーン
 ■ 健全なゾーン
 ▲ 貴殿の実績ポジション



債務償還年数

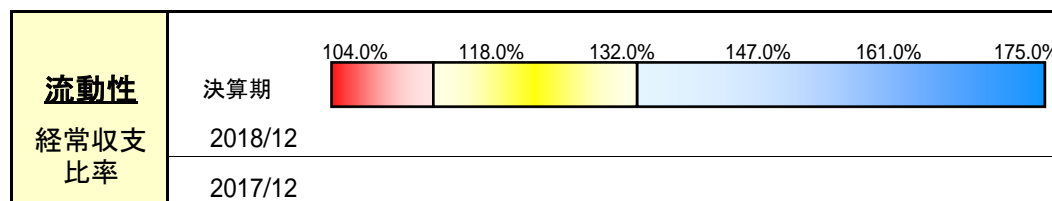
4.0

0.9

債務償還年数(年)

$$= (\text{有利子負債}) / (\text{キャッシュフロー})$$

長期借入金と設備手形を何年で支払えるかを示します。計算上の返済原資は所得税支払後利益に減価償却費を足した値です。キャッシュフローがゼロ以下の場合には表示されません。



経常収支比率

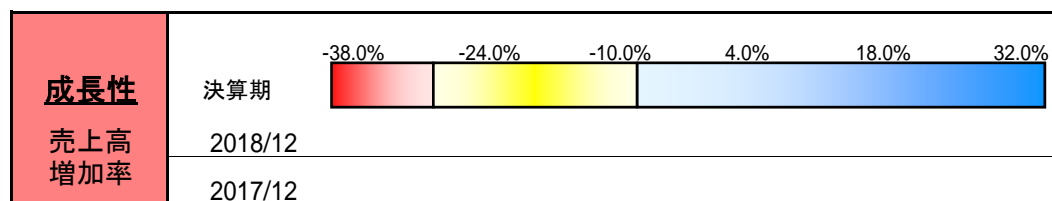
166.1%

212.9%

経常収支比率(%)

$$= (\text{経常収入}) / (\text{経常支出}) \times 100$$

年間の資金繰りの余裕度合いを示します。100%を切ると資金繰りは苦しく、その状態が続くと資金ショート可能性があります。



売上高増加率

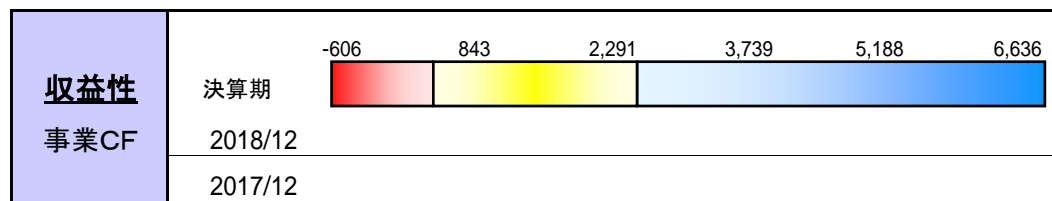
-24.0%

13.8%

売上高増加率(%)

$$= (\text{当期売上高}) / (\text{前期売上高}) \times 100$$

前年度より売上高がどれだけ増加したかを示します。



事業CF

15,819千円

27,726千円

事業キャッシュフロー(CF)

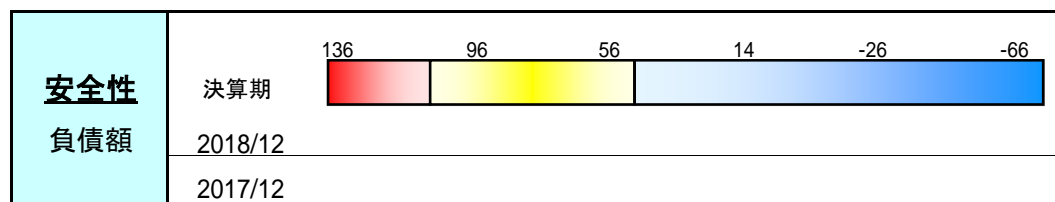
$$= (\text{営業利益} + \text{受取利息} \cdot \text{配当金} - \text{支払利息} \cdot \text{割引料} + \text{減価償却実施額})$$

事業の結果獲得した現金相当額を示します。

【4】単位生産規模当たり財務指標のゾーン分析

■ 改善を要するゾーン
 ■ 注意を要するゾーン
 ■ 健全なゾーン

▲ 貴殿の実績ポジション



(千円/a)

負債額

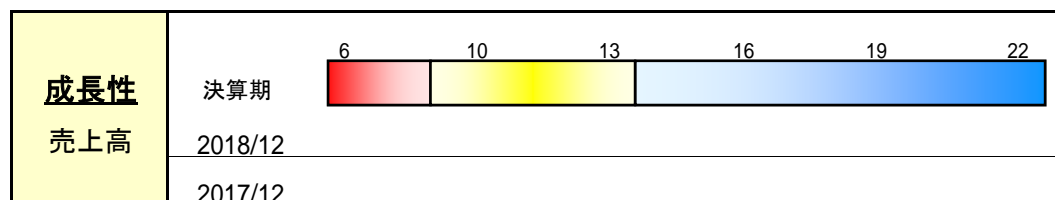
23.4

9.9

単位生産規模当たり負債額

$$= (\text{長短借入金} + \text{支払手形} + \text{買掛金} - (\text{受取手形} + \text{売掛金} + \text{割引手形})) / \text{生産規模}$$

単位生産規模当たりの負債規模を示します。負債額には割引手形を含みます。値が小さいほど安全性が高いと言えます。



(千円/a)

売上高

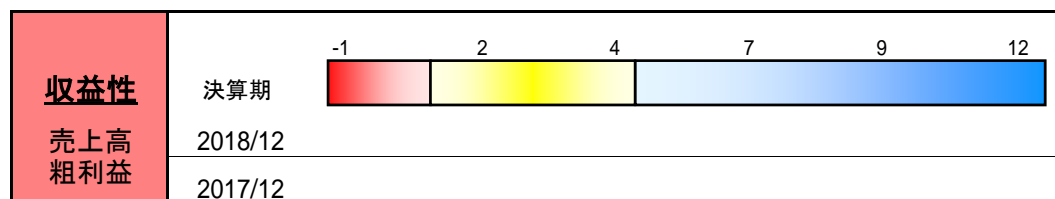
14.5

19.1

単位生産規模当たり売上高

$$= (\text{売上高}) / (\text{生産規模})$$

単位生産規模当たりの売上高を示します。2期を比較すると事業の発展の度合いが確認できます。値が増加している場合は、効率的な経営に発展していると言えます。



(千円/a)

売上高粗利益

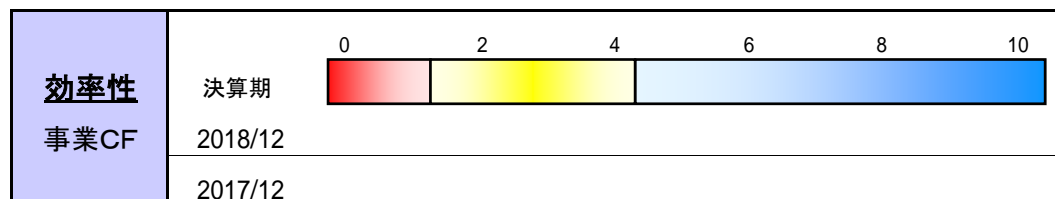
1.2

7.8

単位生産規模当たり売上高粗利益

$$= (\text{売上高粗利益}) / (\text{生産規模})$$

単位生産規模当たりの売上高粗利益を示します。売上高粗利益は、売上高から売上原価を差引いた値です。値が大きいほど単位規模当たりの収益性が高いと言えます。



(千円/a)

事業CF

5.8

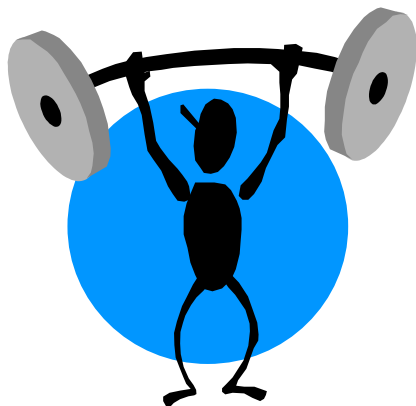
10.1

単位生産規模当たり事業キャッシュフロー(CF)

$$= (\text{営業利益} + \text{受取利息} \cdot \text{配当金} - \text{支払利息} \cdot \text{割引料} + \text{減価償却実施額}) / (\text{生産規模})$$

どれだけ効率的に事業キャッシュフローを確保したかを示します。事業キャッシュフローは、事業の結果獲得した現金相当額を言います。値が大きいほど効率性が高いと言えます。

【5】強みと弱み



強み

キャッシュフローが大きく、余裕のある経営内容です。

付加価値（キャッシュフロー＋人件費等）が比較的高い水準にあります。

弱み

売上高に対しての付加価値（キャッシュフロー＋人件費等）の割合に変化があります。収益の安定性に問題がないか検討してください。

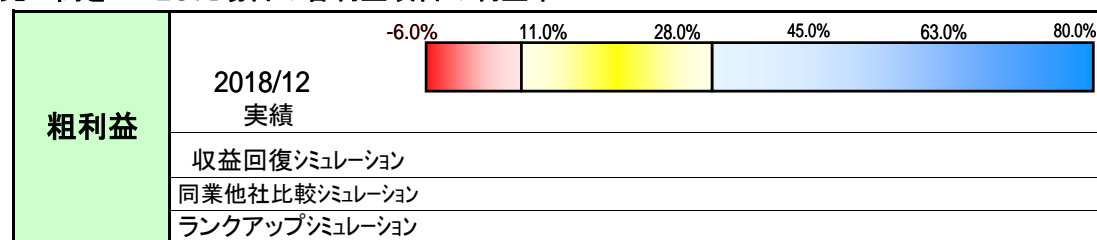
主力商品の生産規模あたりの経常損益の割合がやや低くなっています。利益率の向上に努めてください。



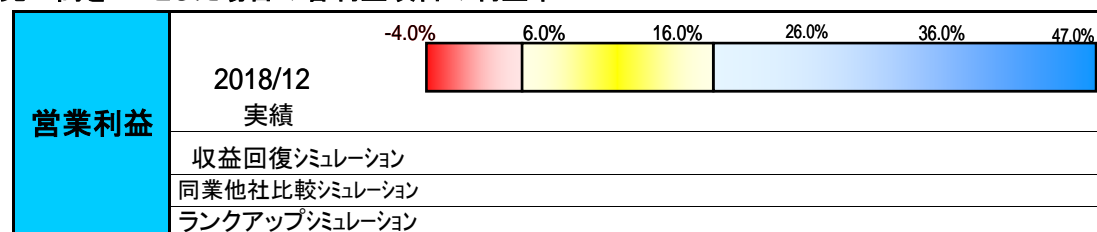
【6】経営改善シミュレーション

■ 改善を要するゾーン ■ 注意を要するゾーン ■ 健全なゾーン

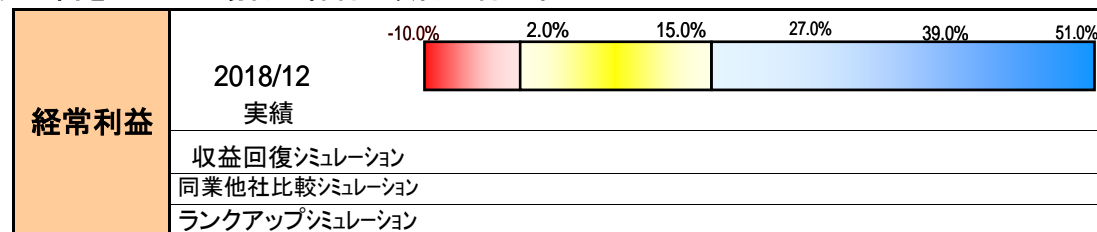
売上高を100とした場合の各利益項目の利益率



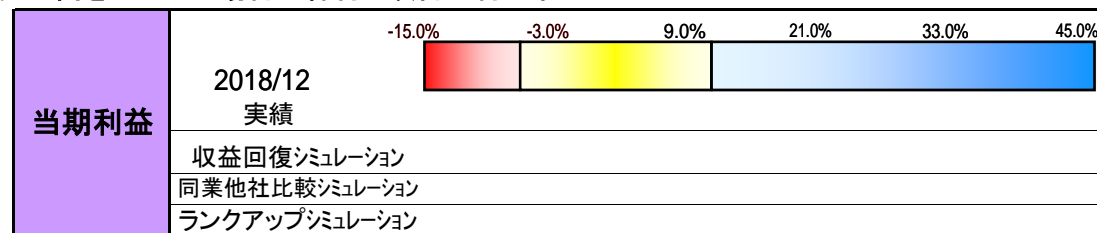
売上高を100とした場合の各利益項目の利益率



売上高を100とした場合の各利益項目の利益率



売上高を100とした場合の各利益項目の利益率



<収益回復シミュレーション>

1期前に比べて平均売上高(当期と前期の平均)が10%以上、粗利益・営業・経常・当期の各利益で3%以上下落している場合の改善シミュレーションです

2期前の粗利益率に比較して、当期の粗利益率が3%以上減少しています。粗利益率を3%増加させると、各利益率は左のようになります。

<同業他社比較シミュレーション>

当期の粗利益率・営業利益率・経常利益率・当期利益率が同規模同業種の平均値より劣っている場合の改善シミュレーションです。

粗利益率が同業者平均に比較するとやや見劣りします。粗利益率が同業種平均(38.8%)までレベルアップするよう売上原価などを圧縮すると、各利益率は左のようになります。

<ランクアップシミュレーション>

当期の粗利益・営業利益・経常利益・当期利益の順で、改善ゾーンや注意ゾーンにある場合、境目まで改善するシミュレーションです。

粗利益率が『注意を要するゾーン』に入っていますが、これが『健全なゾーン』との境まで改善する(粗利益が12,189千円まで引き上がる)のようになります。

- ・ 収益回復シミュレーションの場合、粗利益率は当期実績値とし、営業費用、営業外損益額、特別損益額も当期実績値を使用して策定。
- ・ 同業他社比較シミュレーションの中で粗利益率を改善させるシミュレーションの場合、営業費用・営業外損益額・特別損益額は、当期実績値を使用して策定。
- ・ 同業他社比較シミュレーションの中で営業利益率を改善させるシミュレーションの場合、営業外損益額・特別損益額は、当期実績値を使用。
- ・ 同業他社比較シミュレーションの中で経常利益率を改善させるシミュレーションの場合、特別損益額は、当期実績値を使用。

(単位:千円)	粗利益	営業利益	経常利益	当期利益
実績	3,371	3,371	3,371	3,371
収益回復シミュレーション	4,562	4,562	4,562	4,562
同業他社比較シミュレーション	15,415	15,415	15,415	15,415
ランクアップシミュレーション	12,189	12,189	12,189	12,189